

イオン環境財団の概要

公益財団法人イオン環境財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン株式会社名誉会長相談役）により日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として、1990年に設立されました。以来、多様なステークホルダーの皆さまとともに、「植樹」「環境活動助成」「環境教育・共同研究」「顕彰」の4つの事業を中心に、活動に取り組んでいます。また持続可能な地域の実現を目的に、新たな里山づくりにも取り組んでいます。

主な事業活動

植樹（イオンの森づくり）



宮崎県綾町

◆累計植樹本数 1,268万本イオン全体

自然災害や伐採などで失われた森林の再生を目指し、ボランティアの皆さまとともに植樹を行っています。また、植樹地の自然共生サイト認定も進めています。（植樹本数は2024年2月末現在）

環境活動助成



助成先団体男ノ子の里 棚田保存会の活動地（福岡県）

◆累計助成団体 3,436団体 / 累計助成金額 31億946万円

環境活動に積極的に取り組む非営利団体に対して、毎年総額1億円の公募助成を行っています。（2024年3月現在）

環境教育・共同研究



第1回 イオンSATOYAMAフォーラム

新しい里山の可能性と価値を創造するため、里山に関して連携し共同研究をしている5大学とともに、人と自然の望ましいバランスを研究し里山の新たな可能性を見出し、発信しています。

◆グローバルユースミドリプラットフォーム（GYM）

国連大学と連携し、アジアのユース世代を対象にグローバルで活躍する環境リーダーを育成しています。優秀者には国際会議の場で提言する機会を提供しています。

2024年8月に行われた「第1回国際合同研修スピーチコンテスト」の受賞者のうち2名は、10月のCOP16のサイドイベント会場で、国連大学の代表団の一員として発信しました。

- ・ベスト・プレゼンテーション・アワード（最優秀賞）
伊藤 志帆 国際教養大学国際教養学部グローバル・スタディーズ領域
- ・ランナーアップ（優秀賞）
石黒 平 東京大学大学院農学生命科学研究科

顕彰



生物多様性の保全や持続可能な利活用、それらの普及・啓発・共有の推進を目的とした「生物多様性みどり賞」を創設し、生物多様性に関わる顕著な功績が認められる個人・団体を顕彰しています。

◆第8回生物多様性みどり賞 受賞者



・ヴェラ・ヴォロノヴァ（カザフスタン共和国）
カザフスタン生物多様性保全協会 エグゼクティブ
ディレクター



・イサベル・アグスティナ・カルデロン・カルロス
（ペルー共和国）
環境活動団体 スマック・カウサイ 創設者兼CEO

*授賞式は、生物多様性条約第16回締結国会議（COP16）の会場（2024年10月 コロンビア）で実施されました。

大学連携・環境教育イベント



持続可能な社会の実現に向け、早稲田大学、東京大学、東北大学、京都大学、千葉大学の5大学と連携し、地域が求める里山づくりを目指しています。また、さまざまな環境教育イベントに出展・協賛しています。

◆東京大学との連携

2017年から2021年までの5年間、東京大学未来ビジョン研究センターと連携し、「いま次世代と語りたい未来のこと」をテーマに「イオン未来の地球フォーラム」を実施してきました。

2022年3月に、自然と調和した健全な人間社会の構築と地域の経済再生を目指し、同センターと研究ユニット「イオン東大里山ラボ」を設立しました。新たな里山のコンセプトとして、神奈川県秦野市において里山保全活動がフレイル予防につながり、健康長寿に結びつく研究をしています。



東京大学フレイルチェック

◆環境教育イベント「アースデイ東京2024」

代々木公園にて、4月13日・14日の2日間で10万人が集いました。

当財団のブースでは植樹体験・助成先団体の活動紹介を実施し、2日間で1,000人以上が訪れました。



植樹体験